
ISO 26262 推進に必要な組織体制

今回は、ISO 26262 推進に必要な組織体制のポイントをご紹介します。ISO26262 の推進体制を構築することそのものは、規格で要求されていることではありませんが、特に ISO 26262 対応の初期段階においては、推進組織が非常に大きな役割を持ちます。

ISO 26262 対応の初期段階では、組織内に仕組みを新たに構築したり、既存の仕組みを再整備したりする必要があります。一般的に、このような仕組みの構築（再整備）には、専任のプロセス改善推進グループの設置が推奨されます。CMMIR や Automotive SPICE を用いたプロセス改善の分野では、ソフトウェア開発のプロセス改善活動を推進するグループのことを、SEPGSM（Software Engineering Process Group）と呼びます。最近では、ソフトウェア開発のプロセスに限定することなく、プロセス改善推進組織を広い意味で EPG（Engineering Process Group）とも呼ばれます。

この EPG が ISO 26262 の推進に果たす役割は、機能安全に関する活動を含めた開発活動全体に対して、適切な組織標準プロセスを構築し、それを実施する各担当者に必要な教育を行うこと、さらに組織標準プロセスを維持するために、必要なデータや情報を収集してプロセスを改善することです。

しかしながら、効果的な改善活動を行うためには、専任の EPG だけでなく、セーフティマネージャーや開発チームのリーダーなど、機能安全の活動において重要な役割と責任を持った人員の参画も必要です。

このように、専任の EPG 以外に別のチームからの兼任者を加えて編成したクロスファンクショナル（組織横断的）な改善チームを、CMMIR や Automotive SPICE の分野では PAT（Process Action Team）と呼びます。ISO 26262 においても、セーフティマネージャーや開発チームのリーダーなど機能安全の活動において重要な役割と責任を持った人員を含めた PAT を編成することは、特に機能安全対応の初期段階において有効なアプローチと考えられます。

次に、ISO 26262 対応のために PAT を編成した組織の一例をご紹介します。下記の例では、専任 EPG に加えて、セーフティマネージャー、開発プロジェクトのリーダーを参画させて PAT を編成しています。

■ ISO 26262 対応に向けた PAT の一例

○ EPG : 専任 2 名

PAT の活動を取りまとめ、必要なプロセスを定義します。

○ セーフティマネージャー : 1 名

安全ライフサイクルを通じて、必要な安全活動が適切に定義されることを保証します。

○ 開発プロジェクトのリーダー : 各プロジェクトから 1 名

開発側の立場から、開発現場に定着しやすいプロセス定義を支援します。

- ・プロジェクト現場からの知見を組織標準プロセスに持ち込むこと
- ・組織標準プロセスが、プロジェクトで実施可能であることを保証すること
- ・定義された組織標準プロセスを開発現場に持ち帰って定着させること

Biz3 ホワイトペーパー

このように、PAT は、それぞれの担当分野から専門的知見や現場の意見をプロセスに持ち込むだけでなく、構築された組織標準プロセスを、所属チームに持ち帰って現場に定着させるという重要な役割を担います。

(2012年04月号 メルマガ抜粋)

※特に規定のない限り、下記住所の著作権帰属者からの書面による許可なく、当出版物のいかなる部分も、形式のいかなを問わず、一切の電子的あるいは機械的な方法のいずれによっても、複製、転載、流用することを禁ずる。

ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社

東京都渋谷区広尾 1-13-1 フジキカイ広尾ビル 5F

TEL : 03-5791-2121 / FAX : 03-5791-2122 / E-mail : consulting@biz3.co.jp

URL : <http://biz3.co.jp>